みやぎ生協

● 被災地の学校を支援「亘理町の小学校でアンサンブルコンサート」

（株）宮城県学校用品協会は、被災地学校支援の取り組みとして、仙台在住でグループを結成して活動しているアマチュア演奏家 3 人のご協力を得て、フルート・チェロ・ピアノによるアンサンブルコンサートを企画しました。

この企画は、東日本大震災で被災にあった学校の児童に「みやぎの子どもたちに笑顔を」という思いで行っている学校支援事業の一つで、11 月 20 日（金）に亘理町立吉田小学校と亘理町立荒浜小学校の 2 校で開催しました。

クラシック曲からアニメの挿入歌など 9 曲を演奏し、子どもたちも美しい音色に聞きいったり、曲に合わせて歌ったりしていました。アニメ「妖怪ウォッチ」のテーマ曲では、立ち上がって踊る子どももいて感動を届けることができました。また、フルートやチェロの演奏を聞くのが初めての子どもは、とてもきれいな音色だったと笑顔を見せていました。

（学校部本部次長　髙橋壮彦）

亘理町立吉田小学校

亘理町立荒浜小学校

● 食のみやぎ復興ネットワークの活動から生まれた新ブランド「古今東北」

みやぎ生協が取り組む「食のみやぎ復興ネットワーク」の活動から生まれた新ブランド「古今東北（ここんとうほく）」。

震災復興と地域振興への思いを込めて、時を超えた東北の美味しさを届ける商品です。

「古今東北」は、地域復興を目指して取り組むみなさんと協同して、東北地方を盛り上げていきます。

（事務局　藤田孝）

COCON TOHOKU

【古今東北のロゴマーク】

※古今東北は、「食のみやぎ復興ネットワーク」の取り組みを継承し、震災復興、地域経済活性化を目的に設立された（株）東北協同事業開発（2015年4月設立：みやぎ生協の子会社）が開発しています。

［宮城県岩沼産なたね使用］
菜の花オイルのドレッシング（ねぎ塩）新発売

津波被害を受けた岩沼で収穫された菜種を原料にした「菜の花オイルのドレッシング」。菜の花の香りが残るなたね油を原料にしたドレッシングは、新ブランド化の前にも好評だった商品です。

これまでの和風、しょうが風味に加えて、「ねぎ塩味」が新登場！無添加圧搾製法で絞ったコクのあるなたね油に、国産ネギのまろやかな旨味を生かした塩味のドレッシングです。

新発売［石巻十三浜産］
しゃきしゃき湯通し塩蔵わかめ

わかめの品質に定評のあった石巻市十三浜。津波被害を受けた浜から、肉厚でシャキシャキしたわかめが復活！

生産者のフィッシャーマン・ジャパンは、震災後に東北の若い漁師たちが作ったネットワーク。漁師を増やす活動をしています。

東日本大震災　復旧・復興のとりくみ

生協あいコープみやぎ

● 上映会「原発のない社会を目指して」

あいコープみやぎでは、「原発のない社会を目指して」と題して 11 月・12 月に上映会を開催しました。

11 月 14 日（土）・17 日（火）に上映した映画は「日本と原発」「東京原発」の 2 本立てです。

「日本と原発」は、弁護士の河合弘之さんが監督し制作された作品で、東日本大震災と原発事故のあった2011年3月からの出来事をニュースや新聞記事、現場の状況と関係者のコメントを交えながら分かりやすく解説します。

2004 年に制作された「東京原発」は、原発の問題点をコメディタッチで描きながら日本の現状を示唆するような鋭い内容です。二日間で延べ約 250 人の参加がありました。

12 月 14 日（月）の「小さき声のカノン」上映会は、鎌仲ひとみ監督にもお越しいただき、トークも行われました。監督は震災前から原発問題や劣化ウラン弾の問題などをテーマに映画を作られています。

平日の日中でしたが、お子様連れをはじめ幅広い世代約 170 人超が参加され、関心の高さが伺えます。さらに多くの方に観て頂きたい映画でした。今、一人ひとりの行動と気づきが、とても大切であると強く感じます。

（理事　砂子啓子）

「日本と原発」「東京原発」の上映会後
鑑賞したコメントが貼られたボード

東北大学生協

● 震災復興企画「塩釜でブランチ＆石巻かつおぶし・たらこ見学ツアー」

11 月 21 日（土）に東北大学生協主催の復興支援企画のツアーが開催され 34 人が参加しました。当日は、塩釜水産物仲卸市場、丸平かつおぶし、愛情たらこ・湊水産の 3 つの場所を巡りました。

塩釜水産物仲卸市場は震災から 4 年半が経過したことで、市場付近の様子は落ち着いているように見えましたが、時折、建物に見える傷や塩害の影響で錆びた鉄が、この土地で震災が起きたという事実を語りかけてきました。

丸平かつおぶし工場では、社長が当時の様子についてお話してくださりました。時折、社長の言葉が詰まる様子に胸が苦しくなりました。社長や従業員の方々の苦労・努力・思いに触れ、組合員の方にも現地にきて欲しい、と感じました。

現地のものを食べて、現地のことを学んで、現地のもの買って…。身近にこんな考えさせられる場所があったことに驚きの連続でした。また足を運び、買い物を通じて復興に貢献したいと思いました。これから、この土地のことを、家族や周囲の友人にも伝えていきます。

（職員　赤瀬裕香）

丸平かつおぶし工場でのお話しの様子

大学生協東北事業連合

●　「未来の大学生応援募金」第二次贈呈

大学生協東北ブロックでは、2012 年より「未来の大学生応援募金」の呼びかけを行ってきました。岩手・宮城・福島の特に沿岸部で、震災と原発の被害を大きく受けた高校に対し募金を贈ろうという取り組みです。

2013 年までには 1,000 万円を超える募金が寄せられ、2013 年 3 月～5 月に、被災県の高校 43 校に義援金をお贈りしました。

その後、2015 年 9 月までに募金額が 300 万円を超えたのを機に、9 月末に第二次として 30 校に義援金を贈ることが出来ました。全国の大学生協はもとより各事業連合や取引先の方々、また個人の方々など多くのみなさまのご協力によって募金活動は支えられています。

高校からは「震災から 4 年が経過した現在でも、在校生の約 4 割が仮設住宅から通学している状況の中で、家庭の事情により進学を断念する生徒も実際にいます。皆さまからいただいた義援金は生徒たちの進路指導に充てたいと思います。本当にありがとうございます」など、多くのお礼状が届きました。

私たちはこれからも「未来の大学生応援募金」を継続し、被災地の進学希望者を支援してまいります。

（大学生協東北ブロック事務局
五十嵐のり子）